

# 高雄地区

## 地 勢

赤穂市を南北に貫流する千種川が、有年地区の平野を抜けて蛇行しながら河口部へ向かうまでの流域部分にあたる。中山から木津までを範囲とし、平地部は、千種川を中心として約1kmの幅を保ちながら、南の坂越地区へと続く。

もっとも大きな地形の転換部は、高雄集落西側の西山であり、千種川が西山にぶつかって北側の周世へと迂回し、蛇行して再び南流をはじめの一帯は、人々が生活するうえで肥沃な土壌を提供し、また江戸時代には、貴重な上水道の取水口となった。現在も、中山には赤穂市の統合取水井堰が、木津には上水道の取水口があり、赤穂市の水郷となっている。

## 歴 史

高雄・根木遺跡出土の土器片から、この地に人々

が住み始めたのは、縄文時代晩期（約3,000年前）にまで遡る。弥生時代中期になると、周世・入相遺跡、高雄・根木遺跡、木津・段ノ上遺跡など千種川流域のあちこちにて集落が営まれるようになる。古代には周勢郷に属し、高雄・根木遺跡で建物跡が見つっている。

鎌倉時代には京都の大原法華堂領となり、御厩田があったという。南北朝期頃には山岳寺院として神護寺や安楽坊などが築かれるなど、寺院との関係が深く、真殿には「門前」の地名も残る。

江戸時代の木津には、大工の集住する村があって、旧赤穂郡内を中心に木津大工の手による神社仏閣が残るほか、この地は大工村を中心として上流から木材を集積し、製材・加工のうえ下流部から域外へ送る港としての機能が推定されており、下流には市場としての「浜市」の地名が残る。

表 25 高雄地区 年表

時 代	年 代	できごと
縄文時代後期 弥生時代中期 古墳時代後期	約4,000年前 約2,000年前 7世紀	高雄・根木遺跡で縄文土器出土 周世・入相遺跡、高雄・根木遺跡、木津・段ノ上遺跡等でムラが築かれる 真殿・門前古墳群、周世・黒谷古墳、周世・水木原古墳、周世・宮裏山古墳群、周世・船戸山古墳群が築かれる
古 代	8～9世紀 10世紀ころ 長暦元(1037)年 文治年中 (1185-1190)年	高雄・根木遺跡で掘立柱建物跡が6棟見つかる 「周勢郷」と呼ばれていた（「和名類聚抄」） 古文獻に「坂越庄」がはじめて登場する（「平安遺文」） 神護寺の創建（神護寺縁起）
中 世	正嘉元(1257)年 正和2(1313)年 明応4(1495)年 文亀元(1501)年 天文12(1543)年 天文15(1546)年	木津・段ノ上遺跡で多数の大型掘立柱建物、中国輸入の青磁・白磁が出土 このころ、周世は京都の大原法華堂領となっていた 寺田氏が「坂越庄内浦分堤木津村島二町」の地頭職（「東寺百合文書」） 安楽寺開基（「万福寺総末寺帳并邑郡附」） 龍泉寺開基（「万福寺総末寺帳并邑郡附」） 専念寺開基（「万福寺総末寺帳并邑郡附」） 常德寺開基（「万福寺総末寺帳并邑郡附」）
近 世	元和2(1616)年 寛永15(1637)年 元禄15(1702)年 宝永3(1706)年	切山隧道が完工し、旧赤穂上水道が完成する これ以後、木津大工の社寺建立記録が残る この頃には旧赤穂上水道の取水口が木津に移動する 根木村・目坂村・木津村・真殿村・中山村明細帳 木津村は人口961人のうち大工が68人であった 木津村ほか4ヵ村に水論起こる
近 代	享保6(1721)年 明治22(1889)年 明治25(1892)年 明治27(1894)年 大正9(1920)年 大正10(1921)年 昭和7(1932)年	市制・町村制により高雄村の成立 千種川氾濫により大被害 高雄村役場焼失、千種川改修工事完成 赤穂鉄道千種川架橋工事竣工 赤穂鉄道（赤穂一有年間）が開通 高雄橋が竣工
近 代	昭和26(1951)年 昭和41(1966)年 昭和42(1967)年 昭和47(1972)年 昭和48(1973)年 昭和49(1974)年 昭和54(1979)年 平成3(1991)年 平成12(2000)年	高雄村、赤穂町、坂越町と合併し、赤穂市となる 国鉄赤穂線開通、赤穂鉄道廃止 中山に赤穂市統合井堰が完成 富原橋、高雄橋が竣工、目坂に月見草団地ができ、自治会発足 山陽新幹線、新大阪ー岡山間開業 高雄トンネル開通 台風8号の集中豪雨により高雄橋が陥没流失 1976年の台風17号で被害を受けた高雄小学校の新校舎完成 木津に清水工業団地が竣工、千種ハイランドの造成が進む 赤穂ふれあいの森が完成